

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 4 日現在

機関番号：12601

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2014～2017

課題番号：26590087

研究課題名(和文) グローバル化する世界における民主主義の行方と社会運動の役割についての国際共同研究

研究課題名(英文) The Future of Democracy After Neoliberalism: Social Movements in a Globalizing World

研究代表者

和田 毅 (Wada, Takeshi)

東京大学・大学院総合文化研究科・准教授

研究者番号：20534382

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：グローバル化に対抗する世界の社会運動の多様性を説明するために、欧米や中南米の研究者を中心とする国際共同研究体制を整備した。「Global Southからの挑戦」や「ラテンアメリカからの挑戦」などをテーマに国際会議やワークショップをつみ重ね、社会運動の多様性を描き出すことに成功する一方、グローバル化と並んで「国家の能力」「民主化の過程」などの政治的な側面も理論化作業に不可欠であることも判明した。研究成果を社会運動研究の世界的なトップジャーナルに掲載することを達成した。また、国際会議の前に英語によるセミナーを実施する方式により、若手研究者の育成という目的についても大きな成果をあげることができた。

研究成果の概要(英文)：To explain the variation in the visions and the forms of social movements around the world, which are responding to the processes of globalization, this project has formed a research team of international scholars, mostly from Europe, North America, and Latin America. During the period of this grant, the team has organized several international conferences and workshops with themes such as "challenges from the global south" and "challenges from Latin America" and has successfully described the variations in such challenges. The team has also noticed that we should not ignore political factors, including state capacity and democratization, to fully explain the great variety of contentious activities throughout the world. One of the team's important accomplishments is to publish its first findings in the world's most prestigious journal in the field of social movements. Furthermore, this project has made an important progress in nurturing a young generation of scholars.

研究分野：社会学

キーワード：社会運動 グローバル化 民主主義

1. 研究開始当初の背景

(1) 1994年1月1日、北米自由貿易協定の発効日に、メキシコの貧しい先住民農民を中心とするサパティスタ民族解放軍が新自由主義的なグローバル秩序を批判して武装蜂起して以来、世界各地で様々な社会運動や市民社会組織がこのグローバル秩序に代わる「もう一つの世界」を求めて声を上げている。グローバル化の影響は、地域、社会階層、民族、宗教、ジェンダー等によって異なるため、これらの運動・組織の性格は多様であり、それらが掲げる「もう一つの世界」のビジョンには相反するものも多い。少数の研究者ではその全体像を把握することは困難であった。

(2) このようなグローバル化に対抗する様々な社会運動に関する研究は近年多く発表され、研究代表者もメキシコにおけるグローバル化と民衆抗議行動の関係について研究を行ってきた。しかし、ほとんどの既存研究は個別の国や社会運動の説明に終始し、世界各地の様々な社会運動の比較検討を通じてその理論化を行うという視点が欠如していた。各社会運動が抱いている「もう一つの世界」のビジョンは、それぞれが直面する政治・経済・社会状況によって大きく異なるため、この多様性を説明する社会理論の構築こそが喫緊の課題であった。

2. 研究の目的

(1) 本研究は、社会運動や組織が提唱する新しい価値観に基づく社会とはどのようなものなのか、これらの運動や組織の可能性と限界はどこにあるのか、そして、新自由主義的グローバル秩序にかわる「もう一つの世界」は可能なのかどうかを探求する。

(2) 具体的には以下の三点を解き明かすことである。グローバル化が市民の生活に及ぼす影響は、地域・政治体制・経済構造・社会階層・民族・宗教・ジェンダーなどによってどう異なるのか。そのグローバル化の影響の多様性が、各社会集団のアイデンティティ形成や「もう一つの世界」のビジョンの形成にどのような違いを生み出しているのか。そして、そのアイデンティティやビジョンの違いが、それぞれの社会運動の戦略(暴力・非暴力など)やターゲット(国家・市場・マイノリティなど)にどう影響しているのか。

3. 研究の方法

(1) 本研究は、国際共同研究チームを編成し、比較事例研究を実施する方法を導入した。アジア、アフリカ、オセアニア、ヨーロッパ、北米、中南米のグローバリゼーション、民主主義、社会運動、市民社会研究の専門家を一堂に集め、「もう一つの世界」を追求する社会運動の多様性を比較検討することによって、「もう一つの世界」を追求する社会運動

の類型化や理論化を進め、21世紀のポスト新自由主義時代の社会の可能性を追求していく。

(2) 国際共同研究の具体的な実施方法は、平常時は研究専用のウェブサイトなどを通じて意見・情報交換を行い、年に1回程度研究者が集い研究成果の発表を行うワークショップなどを実施する形とした。日本の研究者や大学院生たちが、世界的に著名な研究者や若手精鋭の研究者と自由な雰囲気の中で討論しながら学問的なつながりを構築し、将来の学術協力の基盤となるようにワークショップなどを設計した。

4. 研究成果

(1) グローバル化と社会運動の関係を理論化する際の枠組みとして今日最も有効なものは、Karl Polanyiの『大転換』に示されている「二重の運動論」ではないかというひとつの方向性が確認できた。これは、元アメリカ社会学会会長であり、当時の国際社会学会会長であるMichael Burawoy氏(University of California)が、2014年7月10日に本科研の講演会で強調した点である。また、同7月20日の本科研のシンポジウムにて、Peter Evans教授(Brown University)も同様の指摘をされた。本研究の理論的な柱の一つとして採択し、この理論を基軸に本科研の理論の構築を試みることとなった。

(2) 本研究の核となる国際共同研究チームの立ち上げと第1回研究会を2014年7月に実施した。海外から21名の研究者を招聘し、国内の研究者や大学院生も交えて、7月20-22日に東京大学伊藤国際学術研究センターで、23-25日に京都大学地域研究統合情報センターにて、国際会議を開催した。南アジア、オセアニア、ヨーロッパ、北米、中南米、アジアの研究者が集い、それぞれが分析対象としている社会運動の研究成果報告を行い、以後の研究方針について話し合った。

(3) 2015年3月に、第2回目の国際共同研究の会合をアメリカのブラウン大学で実施した。世界中の開発学の専門家が集うアメリカ社会学会主催の『開発社会学会議』の場を活用して、「Global South(途上国地域)からの挑戦」をテーマにして共同研究を実施した。日本からは代表者である和田が参加し、社会運動や抗議行動の用いる戦略がグローバル化と民主化過程でどのように変化するかという問題について報告した。Patrick Heller氏(Brown University)やJulian Rebon氏(University of Buenos Aires)が成果報告を行い、グローバル化だけでなく、「国家の能力」も社会運動の多様性を説明するうえで欠かすことができない要因だという視点で一致した。

(4) 2016年1月には、東京大学にて第3回国際会議を実施した。「ラテンアメリカからの挑戦」をテーマにし、Julian Rebon氏 (University of Buenos Aires)、Nicholas Somma氏 (Catholic University of Chile)、Carlos Alba氏 (The College of Mexico)、Ilán Bizberg氏 (The College of Mexico) などが参加した。グローバル化だけではなく、「民主化過程で生じる様々な困難」や「選挙制度以外の民主化の実現が不十分であること」が、社会運動の方向性に多大な影響を与えている点が明らかになった。

(5) この研究の特徴は、国際共同研究であると同時に、若手研究者の育成も視野に入れていることである。英語を中心に海外の研究者と実質的な議論を行うためには、英語力はもちろんのこと、研究テーマについて英語で理解する能力が必須である。このため、2014年に、和田(研究代表者)、Moises Arce氏 (University of Missouri)、Edwin Amenta氏 (University of California) が英語によるセミナーを開講し、大学院生が国際会議の場で活躍するための素養を伸ばすことに努めた。結果として、非常に大きな効果を生み出すことができた。これらのセミナーに参加した大学院生たちが、本科研が主催した国際会議にて活発に議論に参加できたことはもちろんのこと、その後の様々な国際学会で彼らが英語やスペイン語を用いて成果発表を行った回数は15回を超えている。

(6) 社会運動研究分野の世界的なトップジャーナルである学術雑誌 *Mobilization: An International Quarterly* に、この本科研チームの研究成果をまとめて特集号として刊行した。初年度に開催した国際会議に参加した研究者の論文をまとめたものである。

(7) 本科研では、国際共同研究体制を構築すること、若手研究者を育成する仕組みを作ること、社会運動の多様性を描き出すことなどの目的を達成することができた。しかし、アジア、中東、アフリカ地域をあまりカバーできなかったことと、多様な社会運動を大きな理論的枠組に体系的に位置づけることまでは達成できなかったことの2点が、課題として残った。トップジャーナルへの論文掲載など、挑戦的な萌芽研究としては、短期間に大きな成果を達成できたといえるが、今後は上記2つの弱点を克服することによって、理論面でも実証面でも世界中の研究者の必読の研究となるようにさらなる努力を続けていきたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 8件)

和田毅. 2017. 「共催パネル Democracia (民主主義)」『日本ラテンアメリカ学会会報』、査読無、No. 123, pp. 44-46.

和田毅. 2017. 書評論文「岡田勇著 2016. 『資源国家と民主主義 ラテンアメリカの挑戦』名古屋大学出版会」『ラテン・アメリカ論集』51. ラテン・アメリカ政経学会. 査読有.

Amenta, Edwin 2016. "Neoliberal globalization, democratization, and movement responses." *Mobilization: An International Quarterly*. 21: 389-391. 査読有.

Amenta, Edwin, Thomas Alan Elliott, and Amber C. Tierney. 2016. "Political reform and newspaper coverage of U.S. movements in depression, recession, and historical perspective."

Mobilization: An International Quarterly. 21: 393-412. 査読有.

Klandermans, Bert and Jacquelin van Stekelenburg. 2016. "Taking austerity measures or austerity states."

Mobilization: An International Quarterly. 21: 431-448. 査読有.

Wada, Takeshi. 2016. "Rigidity and flexibility of repertoires of contention." *Mobilization: An International Quarterly*. 21: 449-468. 査読有.

Arce, Moises. 2016. "The political consequences of mobilization against resource extraction." *Mobilization: An International Quarterly*. 21: 469-483. 査読有.

Polletta, Francesca. 2016. "Social movements in an age of participation." *Mobilization: An International Quarterly*. 21: 485-497. 査読有.

[学会発表](計33件)

和田毅. 2017. 「メキシコ市民社会の変遷」第11回アジア経済研究所メキシコ研究会. 東京外国語大学本郷サテライトオフィス. 2017年12月23日.

Wada, Takeshi 2017. "Mexican Popular Contention Database (MPCD) and beyond." Oral presentation in the Workshop "Recent Trends in Event Data Analysis of Latin American Politics." LASA2017 "Dialogues of Knowledge." The XXXV International Congress of the Latin American Studies Association. Lima, Peru, April 29-May 1.

Wada, Takeshi 2016. "Civil society thickening: Mexican electricity workers at the turn of the century." Oral presentation at the 111th Annual Meetings of the American Sociological

Association. Seattle, USA. August 20-23.

Rebón, Julián 2016. "Desobedeciendo al desempleo, democratizando la producción: La experiencia de las empresas recuperadas por sus trabajadores en Argentina." Oral presentation at the 2016 UTokyo LAINAC Workshop on "The Future of Democracy after Neoliberalism." The University of Tokyo, Tokyo. January 15.

Alba, Carlos 2016. "Repensar en la política informal: Caso de comerciantes ambulantes en la Ciudad de México." Oral presentation at the 2016 UTokyo LAINAC Workshop on "The Future of Democracy after Neoliberalism." The University of Tokyo, Tokyo. January 12.

Bizberg, Ilán 2016. "Nuevos movimientos sociales en México." Oral presentation at the 2016 UTokyo LAINAC Workshop on "The Future of Democracy after Neoliberalism." The University of Tokyo, Tokyo. January 13.

Somma, Nicolás 2016. "The embeddedness of social movements: A preliminary framework with glances at Chile." Oral presentation at the 2016 UTokyo LAINAC Workshop on "The Future of Democracy after Neoliberalism." The University of Tokyo, Tokyo. January 14.

Wada, Takeshi 2016. "Civil society thickening: A comparison of two electricity workers unions in Mexico." Oral presentation at the 2016 UTokyo LAINAC Workshop on "The Future of Democracy after Neoliberalism." The University of Tokyo, Tokyo. January 14.

Miura, Kota 2016. "¿Los marcos resuenan en realidad?" Oral presentation at the 2016 UTokyo LAINAC Workshop on "The Future of Democracy after Neoliberalism." Yamanashi University, Kofu, Yamanashi. January 15.

Makita, Hiromi 2016. "Citizens' radicalization and state repression: Computational approach." Oral presentation at the 2016 UTokyo LAINAC Workshop on "The Future of Democracy after Neoliberalism." Yamanashi University, Kofu, Yamanashi. January 15.

Niitsu, Atsuko 2016. "El arte chicano y su sensibilidad estética fronteriza." Oral presentation at the 2016 UTokyo LAINAC Workshop on "The

Future of Democracy after Neoliberalism." Yamanashi University, Kofu, Yamanashi. January 15.

Wada, Takeshi, Yoojin Koo, and Kayo Hoshino 2014. "Predicting future action patterns based on the cultural hypothesis about repertoires of contention." Oral presentation at the XVIII International Sociological Association (ISA) World Congress of Sociology. Pacífico Yokohama, Yokohama, Kanagawa, Japan. July 19.

Wada, Takeshi. 2015. "Repertoire as a variable: A cross-national comparative study of the rigidity and flexibility of repertoires of contention." The 4th annual conference of the Sociology of Development section of the American Sociological Association. Watson Institute, Brown University. Providence, RI, USA. March 14.

Burawoy, Michael. 2014. "Manufacturing consent revisited: Reflections on 40 years of labor studies." The International Conference on "The Future of Democracy after Neoliberalism: Social Movements in a Globalizing World." The University of Tokyo, Japan. July 10.

Friedman, Eli. 2014. "Alienated politics: Labor insurgency and the paternalistic state in China." The 2nd Ito International Research Center (IIRC) Conference on "The Future of Democracy after Neoliberalism: Social Movements in a Globalizing World." The University of Tokyo, Japan. July 20.

Seidman, Gay. 2014. "The crisis in COSATU: What democratic South Africa's labor conflicts might tell us about globalization, unions, and social protest." The 2nd Ito International Research Center (IIRC) Conference on "The Future of Democracy after Neoliberalism: Social Movements in a Globalizing World." The University of Tokyo, Japan. July 20.

Chatterjee, Partha. 2014. "Postcolonial democracy and the political management of primitive accumulation." The 2nd Ito International Research Center (IIRC) Conference on "The Future of Democracy after Neoliberalism: Social Movements in a Globalizing World." The University of Tokyo, Japan. July 20.

Steinhoff, Patricia. 2014. "Japanese social movements: Alternative democracy confronts the same old

- state.” The 2nd Ito International Research Center (IIRC) Conference on “The Future of Democracy after Neoliberalism: Social Movements in a Globalizing World.” The University of Tokyo, Japan. July 20.
- Evans, Peter. 2014. “Reading Polanyi in the late neoliberal era: A critically optimistic perspective.” The 2nd Ito International Research Center (IIRC) Conference on “The Future of Democracy after Neoliberalism: Social Movements in a Globalizing World.” The University of Tokyo, Japan. July 20.
- Agarwala, Rina. 2014. “Remaking the working class in the 21st century: Informal workers’ struggles in 8 countries.” The 2nd Ito International Research Center (IIRC) Conference on “The Future of Democracy after Neoliberalism: Social Movements in a Globalizing World.” The University of Tokyo, Japan. July 21.
- 21 Klandermans, Bert, Jacquelin van Stekelenburg, Marie-Louise Damen, Anouk van Leeuwen, and Dunya van Troost. 2014. “We are the people! Confronting the austerity state.” The 2nd Ito International Research Center (IIRC) Conference on “The Future of Democracy after Neoliberalism: Social Movements in a Globalizing World.” The University of Tokyo, Japan. July 21.
- 22 Goodwin, Jeff, and Eduardo Romanos. 2014. “The new anti-capitalist movements: Occupy and 15M in comparative perspective.” The 2nd Ito International Research Center (IIRC) Conference on “The Future of Democracy after Neoliberalism: Social Movements in a Globalizing World.” The University of Tokyo, Japan. July 21.
- 23 Pleyers, Geoffrey. 2014. “Alter-Europe: Progressive activists and models of democracy in the aftermath of the crisis.” The 2nd Ito International Research Center (IIRC) Conference on “The Future of Democracy after Neoliberalism: Social Movements in a Globalizing World.” The University of Tokyo, Japan. July 21.
- 24 Polletta, Francesca. 2014. “Social movements in an age of participation.” The 2nd Ito International Research Center (IIRC) Conference on “The Future of Democracy after Neoliberalism: Social Movements in a Globalizing World.” The University of Tokyo, Japan. July 21.
- 25 Babones, Salvatore. 2014. “From monitory democracy to monitory empire.” The 2nd Ito International Research Center (IIRC) Conference on “The Future of Democracy after Neoliberalism: Social Movements in a Globalizing World.” The University of Tokyo, Japan. July 22.
- 26 Tamayo, Sergio and Guadalupe Olivier. 2014. “The mobilization - demobilization process of the student movement in the difficult construction of a democratic future. The case of Mexican “#Yosoy132” movement.” The 2nd Ito International Research Center (IIRC) Conference on “The Future of Democracy after Neoliberalism: Social Movements in a Globalizing World.” The University of Tokyo, Japan. July 22.
- 27 Chorev, Nitsan. 2014. “The diminishing returns of transnational disputes: the case of intellectual property rights in Kenya.” The International Conference on “The Future of Democracy after Neoliberalism: Social Movements in a Globalizing World.” The Center for Integrated Area Studies (CIAS), Kyoto University, Kyoto, Japan. July 23.
- 28 Jasper, James. 2014. “Social movements and the rise of compassionate democracy.” The International Conference on “The Future of Democracy after Neoliberalism: Social Movements in a Globalizing World.” The Center for Integrated Area Studies (CIAS), Kyoto University, Kyoto, Japan. July 23.
- 29 Arce, Moises. 2014. “Social mobilization and resource-based growth in Peru.” The International Conference on “The Future of Democracy after Neoliberalism: Social Movements in a Globalizing World.” The Center for Integrated Area Studies (CIAS), Kyoto University, Kyoto, Japan. July 24.
- 30 Heller, Patrick. 2014. “Democratic deepening in the age of neo-liberalism: Comparing Brazil, India and South Africa.” The International Conference on “The Future of Democracy after Neoliberalism: Social Movements in a Globalizing World.” The Center for Integrated Area Studies (CIAS), Kyoto University, Kyoto, Japan. July 24.
- 31 Wada, Takeshi, Yoojin Koo, and Kayo Hoshino. 2014. “Predicting future

action patterns based on the cultural hypothesis about repertoires of contention.” The International Conference on “The Future of Democracy after Neoliberalism: Social Movements in a Globalizing World.” The Center for Integrated Area Studies (CIAS), Kyoto University, Kyoto, Japan. July 24.

- 32 Amenta, Edwin, Thomas Alan Elliot, and Amber Celina Tierney. 2014. “U.S. movements in the Great Depression and Great Recessions: Why they took off and why they were so different.” The International Conference on “The Future of Democracy after Neoliberalism: Social Movements in a Globalizing World.” The Center for Integrated Area Studies (CIAS), Kyoto University, Kyoto, Japan. July 25.
- 33 Voss, Kim. 2014. “Ironies of neoliberalism: The shifting repertoires of labor contention in the United States—with some implications for democracy.” The International Conference on “The Future of Democracy after Neoliberalism: Social Movements in a Globalizing World.” The Center for Integrated Area Studies (CIAS), Kyoto University, Kyoto, Japan. July 25.

〔図書〕(計 1件)

和田毅. 2017. 「メキシコの市民社会の変遷：3つのアプローチの検討」星野妙子編『21世紀のメキシコ：近代化する経済、分極化する社会』pp. 71-93. 調査研究報告書. アジア経済研究所.

〔その他〕

ホームページ等

<http://japan2014.globaleventdata.org/tiki-index.php?page=Welcome>

<http://www.jp.lainac.c.u-tokyo.ac.jp/research/rp/project1>

6. 研究組織

(1)研究代表者

和田 毅 (WADA, Takeshi)

東京大学・大学院総合文化研究科・教授

研究者番号：20534382

(2)研究分担者

()

研究者番号：

(4)研究協力者

()